資料３

阪神新地域ビジョンの骨子案のイメージ

全県の新ビジョンを検討する兵庫県将来構想研究会（以下「将来構想研究会」という。）において将来構想試案（案）が示されたことを踏まえ、阪神地域における骨子案の作成を開始する。

＜骨子案策定の視点＞

・阪神新地域ビジョンの骨子案の構成は、将来構想研究会における骨子と同様にするか。
　例）短期・中期的な視点を導入する、良い場合と悪い場合のシナリオを考える等
・現状や課題については、将来構想研究会における審議状況を前提とするか。別途、阪神地域特有の内容（例えば大阪や神戸に近接した住宅都市群）を検討するか。
・以下の＜骨子案のイメージ＞は、現行ビジョンの策定方法と同様、県民の意見を踏まえて事務局で作成したイメージである。今回の柱立て案や骨子案はこれに関わらず、検討委員会を中心にゼロベースで作成していく。

＜骨子案のイメージ＞　※【　】の中は将来構想研究会における見出し

１　策定の方向性【策定趣旨】

人口減少等の社会変化の様相を地域の特性に合わせて分かりやすく「見える化」し、住民が共有できる「なりたい姿」を大胆に描き、中長期的な地域づくりの方向性を示す。（方向性は、県内全地域の新地域ビジョンで共通）

２　阪神地域の現状【大潮流】

（１）ネガティブな面

・人口減少、少子高齢化、担い手の不足などの問題がますます顕著になる。
・住み心地の良い街では、若年家族層が流入するが、保育施設の待機児童問題が顕著になる。
・ニュータウンで高齢化が進み、オールドタウン化する。住民減少により空き家が増加し、まちの環境を損なう原因となる。
・地形上南北の移動が不便で、交通政策が必要となる。
・働き方改革や定年延長などにより労働力の高齢化が進み、農業については、耕作放棄地が加速する。

（２）ポジティブな面

・空き家や余裕ができた空間への移住や二拠点居住が進む。
・テレワークが進み、仕事と趣味や地域活動、やりたいことの両立が可能となり、サードプレイスが充実し、時間や気持ちにゆとりある生活ができる。
・外国人県民のとの交流が進み、既存のコミュニティと融合する。
・AI の発達により、自宅での行政手続き、医療、仕事、買い物、レジャーが可能になる。
・次世代交通に関する取り組みやドローンを利用した物流制度が進む。

３　新地域ビジョンの方向性【新ビジョンの方向性】

技術の進歩を受入れ、快適な生活を享受し、多様な働き方を実現するいっぽうで、人と人とのつながりを再認識し、文化の発展や伝統の承継、コミュニティの再構築を行う。

【柱立て】
１　自分らしいスタイルが実現できるまち
２　自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち
３　みんながつながる、やさしいまち
４　にぎわいのあるまち

項目【柱立て】	具体的な内容【シナリオ】
１　自分らしいスタイルが実現できるまち	・住みたい地域で住み続けることができ、生活の拠点が複数ある。 ・テレワーク等の情報通信技術を活用しつつ、複数の収入がある。 ・自分の能力をいかし、やりがいと生きがいを持って社会貢献する一方で、家族や仲間とのつながりを通じて充実した生き方が浸透する。 ・仕事と趣味、やりたいことの両立、重なりが増えてくる。 ・生活と仕事の境界線が曖昧になれば、趣味や地域活動などのサードプレイスが充実し、時間や気持ちにゆとりができる。 ・人口減少の中でも、個人の充実度が高まる。 ・若者が夢を語ることができる。
２　自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち	・文化芸術が、ソフト、ハードともに、地域住民になくてはならない場所として活用される。 ・人口は減少しても、文化活動に参加する人口が多い。 ・文化芸術は自分にとって遠い存在ではなく、心豊かな生活を送る上で不可欠なものとなる。 ・子どものときから文化に触れることができる。 ・スポーツをする人の裾野が広がり、スポーツを通じての地域交流が拡大する。 ・自然を感じる感性が増す。 ・生まれ育ったまちに愛着を持てる。 ・地域らしい緑、景色がある。
３　みんながつながる、やさしいまち	・子どもや高齢者について、リモートでの意思疎通や安否確認が普及するとともに、「向こう三軒両隣」のような意識も強まり、見守りが行き届く。 ・親の介護問題の負担が減るなど、情報通信、技術の発達による生活へのサポートが広がる。 ・技術を活用したふれあいと、直接のふれあいのハイブリッドを目指す。 ・子育てに色々な選択肢がある。 ・増加が予想される外国人県民に地域活動への参加を促し、日本人住民にとっては次世代の地域活動の担い手となり、外国人県民にとっては自己実現の場になる。 ・外国人県民との交流により、お互いに支え合い、学び合う多文化共生が広がる。
４　にぎわいのあるまち	・自動運転の発達により、人やモノの円滑な移動が進む。 ・各市町が持つ特徴・個性・資源を磨き上げて PR し、「県内」の人に来てもらう。 ・大阪、神戸、京都に近い阪神間は、各地域のハブとしての機能が強化される。広域的には、空と海を兼ね備えた産業都市とする。 ・身近なところに皆が集まる楽しい場所がある。 ・高齢者、女性、外国人が働く環境が整備され、世代・性別に関係なく活躍の場が広がる。 ・限られた都市空間を効率的に使う。 ・規制が少なくなる一方、倫理観、寛容性、思いやりなどが高まる。